

# 日本の米づくりをささげたい お米育ち豚プロジェクト

日本でお米を食べる量が減り、米づくりは危機的な状況です。そこでコープデリが生産者と協力し行っているのが「お米育ち豚プロジェクト」。家畜の餌となるお米を育て、そのお米で豚を育てています。その豚を私たちがおいしく食べることが、食の未来につながります。

きっかけは、日本の米づくりへの危機感

日本の食卓に欠かせないお米。でも、この50年あまりでお米の消費量は半分以下に減っています。パンや麺類をはじめ、さまざまなメニューが食卓に並ぶようになり、その分お米を食べる量が減ったからです。多くの生産者が米づくりをやめ、田んぼは荒れ地に変わり、後継者を育てて技術を伝えることも難しくなっています。

しかしコロナ禍や気候変動、世界情勢が不安定になる中で、国内ではほぼ100%をまかなえるお米をつくり続けていくことはとても重要です。米づくりをささげ、減ってゆく田んぼを守りたい、生産者を応援したい。こうした想いで2008年に始まったのが「お米育ち豚プロジェクト」です。

輸入の餌を、国産の米に置き換える

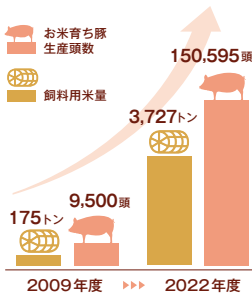
お米育ち豚プロジェクトでは、田んぼでお米をつくり続けるために、豚の餌としてお米を使用できないかと考えました。トウモロコシなど家畜の餌の多くは輸入に頼っていて、これを餌用のお米「飼料用米」に置き換えることで、お米の生産を維持でき、田んぼを守れるからです。

お米育ち豚は、生まれてから出荷するまでの約6カ月間のうち、出荷前の約2カ月間、輸入の餌の代わりに飼料用米を15%以上配合した餌を与えています。餌を輸入から国産に置き換えることで、日本の食料自給力の向上を目指しています。

おいしく食べることで、未来につながる

お米育ち豚は、餌にお米を配合することで、脂身がさらっとして肉質がしっとりとした、おいしいお肉になりました。しゃぶしゃぶなどにぴったりで、「やわらかくておいしい」「脂身は甘みがあってさっぱりしている」と好評です。プロジェクト開始から15年、岩手県から始まった生産は6県に広がり、昨年度の生産頭数は15万頭以上、飼料用米の生産量は37,277トンに達しています。飼料用米は牛や鶏にも広がり、お米育ち豚と合わせて5000トン以上が活用されるようになりました。

お米を育てる人、お米を餌に加工する人、豚を育てる人、命をいただく肉に加工する人、商品として届ける人、食べることで応援する人。お米育ち豚プロジェクトは、食に関わるたくさんの人の力で成り立っています。私たちがおいしくいただくことで、日本の食と農畜産業の未来につながります。



コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成を目指しています。



今回の取り組みは、目標12:

つくる責任 つかう責任  
につながっています。

